

笑顔満天

第 13 号

R1. 11. 1



【発行】

〒651-1621 神戸市北区淡河町神影115

児童養護施設 天王谷学園

TEL 078-958-0302 FAX 078-958-0346



ここ数年、異常気象といわれる中で台風により甚大な被害に遭われた地域、そして毎年小学6年生を招待していただく沖縄の首里城の火災等、他人事とは思えない災害が報道されるたびに心が痛みます。被害を受けられた方々にお見舞い申し上げますと共に私たちは何が出来るか、どう予防していくか、万が一の時に施設は地域にどういったお返しが出来るのか具体的に考える必要があります。いったい世界の気候はどうなるのでしょうか？と心配しながら、淡河は実りの秋の真ただ中、新米にサツマイモ、お鍋の時期になりました。子ども達の食欲も旺盛でうらやましい限りです。

さて、私どもの福祉の足元もばたばたしています。「新しい社会的養育ビジョン」が出て以降いろいろと議論がありますし課題も突きつけられています。里親との関係・高齢児処遇から自立支援の方法、補助金もつきますが人材の問題は深刻です。全職種で人材不足といわれる中、社会福祉関係も同様であり採用からの人材育成は急務の問題になっています。良い人材を育てていける職場作り・環境作りが大切で、児童処遇改善と両輪で取り組む喫緊の課題になっています。

真ん中にいる子ども達は元気で、本当に良く頑張っています。小学生はフットサル神戸市大会を3連覇し、京都での近畿スポーツ大会に出場し今年は見事3位でした。感動をありがとうございます。毎日学校まで往復5キロの通学と日々の練習の成果で体力も根性もつき田舎にある施設の利点を感じています。保育園も元気です。今年は0歳1歳のお子様が多く、定員一杯の幼児さんが毎日元気に動き、いつ行っても賑やかです。来年度の入園者も問い合わせがありうれしい限りです。「淡河の保育園」として地元の方に愛され利用されるよう活動していきますのでご支援のほどお願いいたします。

児童福祉を取り巻く環境も激変するかもしれませんが、施設の特徴は何かを考え建替えの際には災害等の非常時に地域貢献できる施設になるよう行政と相談しながら今いる子ども達を大切に養育して行こうと思います。まずは現場の様子を「笑顔満天」でお楽しみください。

社会福祉法人天王谷学園 理事長 波来谷 徹生



フットサル近畿大会

第68回近畿児童福祉施設スポーツ大会に神戸市代表として参加させていただきました。結果は第3位。チームとして「優勝」を虎視眈々と狙っていただけに悔しい結果となりました。準決勝で敗戦した際に見られた子どもの涙や、「心にぽっかり穴が空いたみたい」という言葉から、今大会に懸けていたことが伺えました。優勝はできなかったけど、子どもたちのがんばりをずっと称えてあげたいと思います。

神戸市大会、近畿大会前に交流試合の機会を頂いた、聖智学園、善照学園、淡路学園、平安養育院、平安徳義会養護園の子どもたちと職員の方々、そしてこれまで応援してくれた全ての方々に心より感謝申し上げます。（松本）



キャンプ



7月29日から7月31日まで毎年恒例のキャンプを京都府の久多キャンプ場にて大きな事故もなく行いました。今年も親和女子大学の学生の方々にもお手伝いいただき、小学生から短大生までの子どもたちと一緒にテントとバンガローを借りてキャンプを行いました。

京都府の山中にある川辺のキャンプ場で夏の暑い季節でしたが、とても涼しく過ごす事が出来ました。子ども達は山間の川の水の冷たさに驚きながら、川辺で水遊びをしたり、夜は焚き火をしたりと思い思いの時間を過ごす事が出来ました。（澄生）



バレーボール大会



今年は高校生が多く、出場メンバーに悩みましたが無事に参加することが出来ました。練習の段階から雰囲気良く、全員が優勝を目指し練習をよく頑張っていました。選手の年齢の関係で6年生がフル出場になり練習では苦手としていたサーブも9割ほど入り、本児も安堵する表情が多く見られました。

対戦相手により緊張してボールから逃げてしまう場面が多く、チームで声を出して頑張っていました。準決勝で負けてしまいキャプテンも他の選手も悔しさから涙を流していました。3位決定戦では気持ちを切り替えて勝利し、総合で3位という結果を残しました。（脇田）

海水浴



今年の海水浴は2泊3日とてもいい天気でした。日差しにも波にも負けることなく楽しみ、去年は海を怖がっていた子どもスイスイ泳いで成長した姿が見られました。浮き輪投げのレクリエーションでは勝つためにチームで協力し、大きい子が小さい子に手を貸したりと微笑ましかったです。いっぱい動いてお腹が空いた後のご飯はとても美味しく、子どもも大人も沢山おかわりしてもりもり食べていました。みんな肌が小麦色に焼けて、満足した様子を見せていました。（川辺）



運動会



<淡河町町内運動会>



9月16日に淡河町民運動会がありました。子どもたちは神影地区の選手として、綱引きやリレー、玉入れに出場しました。綱引きでは3分以上続く大接戦を繰り広げ、大奮闘の結果見事優勝しました！

玉入れでは、大きい子が小さい子をだっこして、玉を入れさせてあげる場面もありました。どの競技も応援の声がとびかい、熱く暖かい空間になっていました。総合優勝は逃しましたが、来年は優勝めざして地域の皆さんとで頑張ります！（古川）

<園内運動会>

今年の園内運動会も子どもたちがすごく良い笑顔で参加してくれていました。去年に比べて新競技が多くなっていて、子どもたちも新鮮な気持ちで競技に参加していました。また運動会の最中には中高生が小学生や幼児などの学年が小さい子どもの面倒を見てくれる場面も多々あり、微笑ましいシーンも見られ心が温くなる運動会になりました。来年に向けて子ども達や大人からのリクエストや期待に応えて皆が満足してもらえるような園内運動会を作っていこうと思いました。（山本）



<中学校運動会>



9月21日中学校の体育会がありました。台風の接近により開催が危ぶまれましたが、晴れて無事することが出来ました。今年から初めて取り組んだ集団行動や夏休み中も練習していたソーランでは一人ひとりが仲間と協調し、素晴らしい演技でした。

その他の様々な対抗競技でも子どもたちが一生懸命に取り組む姿が見られました。体育委員長を任された3年生の児童は大きな声を出して選手宣誓やあらゆる場面で全校生徒を鼓舞するなど全身全霊で体育会に取り組み、先生方からも褒めて頂き嬉しそうでした。（杉村）



<幼稚園運動会>



午後から雨という予報でしたが、ちょうどいい気候の中始まった幼稚園の運動会。学園の幼児さんは3名、年長・年中・年少に一人ずつ頑張る姿がありました。ずっと練習していた竹ぽっくりに竹馬。高い竹馬に乗った姿はとても感動しました。ラジオ体操は棒立ちだったのに、みんなで踊ったパプリカのダンスはノリノリで可愛かったです。

年長さんはクラスに2人だけでしたが、司会もダンスも応援も小さい子を引っ張り応援旗を振る姿も頼もしかったです。年長さんにとって最後の運動会は笑顔で終わることが出来ました。（庄司）

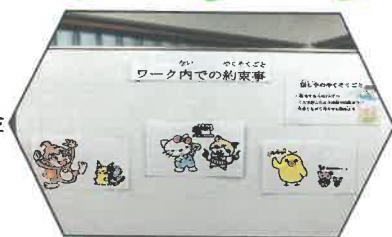


性教育委員会

天王谷学園 性教育委員会では、子ども達一人ひとりが「自分は大切な心と体を持った大切な存在」ということを感じられるように取り組みを行っています。

年間を通して、前期と後期の2回に分けて人間の心と体が成長していくプロセスについてグループワークを通じて学びます。と言いましても学園には様々な年齢の子どもがいるので、学齢・性別に応じて幾つかのグループに分けて「体と心の大切さ」を伝える工夫をしています。

子どもが自分自身の心と体を大切にだけでなく、ひいては「周りにいる人も大切な心と体を持った大切な存在」ということを理解することを目指します。色々課題は多いのですが、子ども達が互いに大切に思い合う優しい心を持てるように、日々、取り組みを進めております。(塚田)



パンダこうとく保育園



今年で5年目を迎えたパンダこうとく保育園は、3歳児3名、2歳児5名、1歳児9名、0歳児2名の計19名と定員いっぱいとなりました。子どもたちも、笑顔いっぱい毎日を送っています。

今年は、生き物に縁のある年で、近所の方が「うちの水路でいたんだけど、小さい子どもたちは見たことがないかなと思って…」と、「サワガニ」を持ってきてくださり、タライの中で飼育したり、園児のお父さんから頂いたカブト虫や幼虫を3歳児が、ゼリーの餌を取り替えたり、霧吹きでマットを湿らせたりとお世話が上手にできました。

保育園では、つばめの赤ちゃんが5羽かえり、その成長や巣立ちまでを子どもたちと一緒に見守ることができ、素敵な体験をさせてくれる淡河の自然と、地域の方々が保育園のことを気にかけてくださっていることに、私たち保育者はとても感謝しています。

一方、毎年行う行事も年々充実してきて、今年度も親子夕涼み会、親子運動会を行いました。夕涼み会では、2・3歳児がお揃いの法被を着て、子ども神輿をかつぎ、竹太鼓をたたきました。親子運動会では、予定日に警報が出てしまい、延期開催となりました。しかし、当日は、子どもたちも全員参加することができ、お家の方も沢山応援にかけつけてくださり兄弟参加もありアットホームな運動会となりました。

11月の淡河町文化祭には、今年も子どもたちの作品を展示します。先日行った淡河町公園やお散歩で拾ってきた松ぼっくりやどんぐり、落ち葉を使って今まさに製作を楽しんでいます。

これからも自然豊かな淡河という地域の中で、皆様に見守られながら、子どもたちの健やかな成長を願って頑張っていきたいと思っております。(榎本)

<< 編集後記 >>

令和元年、5月の天皇陛下皇位継承に始まり、10月には即位礼正殿の儀、11月に祝賀御列の儀と大嘗祭と平成から令和へ新時代の幕開けが滞りなく終わろうとしています。令和という時代が子ども達や福祉環境にとって良い時代になるように願うばかりです。(西ノ)

